

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172000515		
法人名	特定非営利活動法人 生きがいセンター		
事業所名	グループホーム 生きがい		
所在地	小樽市朝里川温泉2丁目694番3号		
自己評価作成日	平成23年2月15日	評価結果市町村受理日	平成23年4月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

四季折々の表情が変化する自然豊かな環境に位置しています。野鳥のさえずりや、川のせせらぎが聞こえます。ホームの中庭には家庭菜園があり、利用者様と一緒に野菜の成長を楽しんだり草むしりをしたり収穫などを楽しんでいます。育てたジャガイモは中庭の炉でお湯を沸かし塩ゆでして食べました。のんびりと家庭的な雰囲気の中で利用者様一人ひとりが楽しく安心した生活を送れる様に努め、地域の方々との交流を深めながら、地域に密着したグループホーム作りを目指し、取り組んでいます。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigooho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0172000515&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3番地北1条ビル3階
訪問調査日	平成23年3月8日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

小樽市郊外の温泉地区にある2階建てのグループホームです。系列グループホーム2つが隣接しており、周囲には遊歩道や東屋もあり、自然が豊かで気軽に散歩を楽しむことができます。室内は白色を基調とし、明るく清潔な環境となっています。エレベーターや広いトイレ、手すりなど、バリアフリーにも十分配慮されています。利用者や職員が楽しく会話を楽しんでおり、明るくにぎやかに過ごされています。利用者のペースが尊重され、ゆったりとしています。一方で口腔機能の低下を防ぐ訓練などにも全員で取り組んでいます。介護計画は、利用者や家族の意向を踏まえてきめ細かく作成されており、定期的な見直しの際にも、職員の意見を幅広く取り入れています。来訪される家族が多いため、情報交換が密にできており、家族との信頼関係が築けています。職員同士や職員と管理者のコミュニケーションも良好で、安心できるグループホームです。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を作っています。玄関や休憩室に貼りいつでも確認出来るようにしています。社内研修でも定期的に取り入れ確認し実践出来るようにしています。	運営理念の中に「地域との結びつきを重視した家庭的な環境の下」という文言を加え、地域密着型の理念を確立しています。理念は玄関などに掲示し共有しています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の子供会と一緒に七夕祭り、クリスマス会、雪あかりのオブジェ作りなどを行っています。地域の小学校の運動会や学習発表会に参加させて頂いています。	近隣の福祉施設の夏祭りに参加しています。小学生と運動会や学習発表会で交流したり、地域の歌や指圧のボランティアの訪問も受けています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で民生委員、包括、消防の方など意見交換しています。地域交流の際には入居者との接し方や支援方法など説明し、認知症について正しく理解して頂けるように努めています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度、運営推進委員会を開催し地域の方やご家族との話し合う場を設けています。生活状況報告と意見の交換を行いサービス向上に活かしています。	会議は2ヶ月毎に開催され、地域包括支援センター、消防署、民生委員、家族などの参加を得て、多様なテーマで話し合い、意見交換がされています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村と共にケアサービスの質の向上に取り組める様な機会を作りたいと思います。	運営推進会議に地域包括支援センターの職員が参加しています。市の生活支援課や保護課とも、利用者に関する相談で連絡を取り合っています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	『身体拘束廃止推進委員会』や社内研修により学んでいます。現在、玄関の鍵については、外から入る際は自動で開くがホームから外に出る際は遠隔操作にて開く形になっています。	身体拘束の弊害を理解し、勉強会を開いて職員の理解を図っています。玄関の施錠について、以前は夜間のみの施錠でしたが、利用者の危険を考慮し、現在は遠隔操作で開錠しています。	日中は、できるだけ利用者が自力で外出できるような形が望ましいので、利用者の危険や職員の見守り状況を見ながら、施錠方法の将来的な見直しを期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修会があれば参加しています。定期的に社内研修を行い高齢者虐待防止については職員が熟知出来るように努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内研修にて学ぶ機会を持ったが、活用には至っていません。今後も制度の理解に努めていきたいです。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、入居者やご家族に十分に説明を行っています。契約後も不安や疑問点がないか確認しています。解約時にも不安の軽減に努めています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見や不満・苦情に思っている事があれば、都度伺うようにしています。運営推進会議時に話し合い納得し解決出来るように努めています。	運営推進会議に家族の方々が多数参加しています。普段の家族の来訪も多く、意見を聞き、申し送りノートに記載して職員間で共有しています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個別に意見や提案を聞いたり、定期的にフロア会議を開き意見交換の場も設けています。	月1回以上のフロア会議で意見交換しています。管理者と職員は、随時個別に相談もしています。各種の業務を職員が分担し、運営に参加しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	段階に応じて、社外研修で学ぶ機会を作っています。また、資格取得についても勧めており社員登用の制度もあります。職員が前向きに働ける職場環境作りを行っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	段階に応じて、社外研修で学ぶ機会を作っています。また、資格取得についても勧めており、有資格者が勉強会を開いたりする支援も行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との相互訪問の話はあるが実際にはまだ行われていません。今後交流する機会を作り、サービスを向上させて行きたいです。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居希望者と面談を行い、本人の意見や意向、不安に思っている事などをお聞きし状況の把握や不安の軽減に努めています。また、ホーム見学も勧めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談時から、ご家族の思いをよく聞くようにしています。サービス開始時の不安の軽減を図っています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族の話を傾聴し、必要とする目標を共有し最善のサービス提供に添える様に対応しています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	昔の体験談や生活の知恵を聞き教えてもらうという姿勢で接しています。人生の先輩として、接するように心掛けています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話にて日々の様子をお伝えし、ご家族からの意見もお聞きし、より良いサービスが出来るようにしています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人・知人との面会や電話を通じて関係を継続出来るよう努めています。又、ホーム入居前からの病院受診等についてはご家族の協力など頂きながら関係が途切れない様になっています。	知人や友人の来訪を歓迎し、手紙や電話のやりとりも支援しています。行きつけの美容院に通ったり、地域の懐かしい場所に利用者連れて行っています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者間の相性や個々の性格に配慮しながら、気の合う仲間作りの支援をしています。又、相性の良くない利用者同士には職員が間に入り、衝突を防ぎ安心した生活を送れる様に務めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も何かあればいつでも相談して下さいと伝えています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望や意向などその都度聞くように努めています。困難な場合には表情や動作から思いを探り本人本位に努めています。	思いや意向を表現するのが難しい場合も、表情などから把握しています。情報を「サマリー」などに記録し共有しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者ご家族より生活歴や嗜好などお聞きしサマリーやインフォメーションシートとして記録しサービス提供に活かすようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者の言動・食事水分摂取量・バイタルチェック・排泄など把握を行い記録を残しています。状態について申し送りを行い職員間で共有しています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人とご家族の意向を確認し職員が定期的に話し合い心身の状態を見ながら個々に合った介護計画を作成しています。	3ヵ月毎にモニタリングを行い、職員の意見を集約して、介護計画を見直しています。日々の記録も計画に沿って内容を記載しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を個々に介護記録に記入しています。申し送りや送りノートを使用し情報の共有に努め、情報を基に介護計画の見直しを行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	面会時には居室・リビングなど自由に利用して頂いています。ご家族の同行が難しい時の通院などは、付き添いを行っています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	小学校の行事に参加したり子供会や幼稚園児と一緒に行事を行っています。また、歌会やお茶会、指圧などボランティアの協力を頂いています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院に移行するか以前からの病院を継続するかご本人ご家族に確認し希望される受診や往診が行えるよう支援し、何かあった時はすぐに対応して頂けるような関係を築いています。	2ヵ所の協力医が、それぞれ毎週バスで利用者を送迎して頂き、各利用者が月1回は受診しています。受診内容を「受診記録」に記載し、家族に適切に連絡しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	敷地内の事業所に看護職員がおり、入居者の健康管理や職員の相談に対応してくれています。体調で何か心配な事があれば、協力病院の看護師に相談し支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には本人に関する必要な情報を提供しています。ご家族、医師と連絡を取りながら速やかな退院支援に結びつけています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期については、入居時に本人やご家族に話をしています。状態の悪化が予想される場合は早い段階で、主治医・ご家族と十分に話し合いを行い方針を決めています。	重度化した場合や終末期のホームでの看取りは難しく、医療機関等と連携して円滑な支援を行うこととし、方針を利用者や家族に十分に説明しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急事態発生時に備えて、フロア会議や消防署による火災訓練や応急手当講習を受け、いざという時に対応できるようにしています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	敷地内の2つのグループホームと連携し、火災訓練と自主訓練を年に2回行っています。夜間を想定した避難訓練も実施しました。	年2回以上、昼夜を想定して避難訓練を実施しており、消防署や地域の福祉施設と災害時の協力体制を築いています。職員の救急救命訓練も定期的に受講しています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として敬う態度で教えて頂く立場と考えながら言葉かけや対応をしています。	「さん」づけを基本に、利用者の希望に応じて声かけしており、個人ファイルも適切に管理しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご自分で決定出来るように、わかりやすくお伝えしたり問いかけたりしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の生活は、入居者のペースを大事にしており、個々の性格・体調・状況に合わせて対応しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節にそった服装やその人らしい衣服が着られるように支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	苦手なメニューを代替えしたり、食べやすく調理したりする事で楽しく食事ができるように支援しています。準備や後片付けも一緒にしています。	利用者と職員が、一緒に会話を楽しんで食事しており、下ごしらえや下膳、食器拭きなども手伝って頂いています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の主食、副菜、水分量をどの位摂取したか記録しています。個々に合わせ、お粥などを提供したりと各自形態に配慮した支援を行っています。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛け見守りにて歯磨きをして頂き不十分な利用者にはお手伝いをしています。夕食後は義歯を預かり洗浄剤に浸け衛生保持に努めています。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレ誘導や声掛けが必要な方には、さりげなくサポートしています。失禁による不快感を軽減し、出来る限りトイレにて気持ち良く排泄する事が出来るように支援しています。	介護記録に排泄状況を記録し、パターンを把握して、時間や利用者の仕草を見て、さりげなく誘導しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食物の工夫、運動を取り入れていません。便秘の場合は医師へ相談し下剤など処方して頂いたりもしています。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	体調やご本人の気分などに考慮し、出来るだけご本人のペースで入浴が出来るように支援しています。シャワー浴なども用いて、個々に合った入浴をして頂いています。	毎日入浴することが可能で、週2回程度は入浴できるように支援しています。入浴を希望しない場合も、時間をずらしたり、翌日にすることでスムーズに入浴ができています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動量や体調を把握し、安心してゆっくり休む事が出来るよう支援しています。睡眠状態を確認する為に定期的に巡視を行っています。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書にて、副作用、用法や用量を把握しています。服薬後の体調などの変化にも気を付けています。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居時に本人やご家族から生活歴や楽しみなどを伺うようにしており個々に合わせた楽しみ事が行えるように支援しています。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員やご家族と近隣を散歩したり、催し物に参加したりご家族の協力の下、ドライブや外食に出かける入居者もいます。地域のボランティアの方と中庭で行事を行ったりしています。	遊歩道や中庭で散歩したり、隣接するグループホームに出かけています。花見や紅葉狩りなど、外出行事も行われていますが、外出先はやや固定化されています。	利用者の希望を聞いたり職員で意見を出し合い、家族などの協力も得ることで、普段行けない場所など、外出先の多様化や希望に応じた外食の実現などを期待します。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者はお金の管理は行っていません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	申し出があれば、いつでも電話を掛けられるように支援しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	行事(お正月・ひな人形・五月人形・クリスマス)などに合わせ飾り付け、季節感を味わえるよう工夫しています。 不快な音や光がないように、その都度調整しており心地良く過ごせるように努めています。	共用空間は明るく、壁には季節の装飾や絵画、利用者の作品などが飾られ、家庭的な雰囲気となっています。風呂やトイレも使いやすく清潔です。温度や湿度も調整されています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング・フロア・居室などを自由に使用して頂き、気の合う仲間同士でお喋りを楽しまれたり、居室にて休まれたり、個々の時間を過ごしています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には慣れ親しんだ物を持参して頂いています。好みに応じて心地よく生活が出来るようにしています。	居室は、利用者の馴染みの家具や生活用品が持ち込まれ、安心して過ごせる場所となっています。壁にもカレンダーなど、自由に飾り付けをすることができます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレなどには表札をつけわかりやすくし、入居者の出来る事、出来ない事を把握し出来ない事は一緒に行い自立に向けた支援を行っています。		